

平成 22 年 4 月 15 日現在

研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520484
 研究課題名（和文） 力量ある英語教員養成のための授業力向上訓練ビデオ教材の開発
 研究課題名（英文） Production of video materials for developing English teachers' teaching techniques
 研究代表者
 三浦 孝 (MIURA TAKASHI)
 静岡大学・教育学部・教授
 研究者番号：30279989

研究成果の概要（和文）：

近年その必要が強調されている発信型コミュニケーション力重視の中学・高校英語教育を推進する上で有効な指導方法について、文献研究・各種学会参加・学校訪問等により研究し、また関連諸分野での先進的実践家を講師に招いて公開セミナーを4回開催して参加者と研究・協議を重ね、最終的にその研究成果を冊子『確かな力を育てる英語授業ハンドブック（DVD付）』として刊行し、英語教育関係者に提供した。

研究成果の概要（英文）：

We studied and developed methods and techniques pertinent for promoting junior and senior high school English education geared for developing productive communication abilities that are strongly in demand these days, by means of literature studies, attending various professional conferences and school visits, and also by means of holding four seminars inviting competent practitioners in the relevant fields. As a culmination of all these studies, we published 'English Lesson Handbook for Developing Concrete Abilities', a teachers' reference material with a DVD pictures, and distributed its copies to schools and boards of education.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	400,000	120,000	520,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語・授業力・指導技術・ティームティーチング・ALT

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の中学・高校英語教育政策はコミュニケーション重視を打ち出し、政策面や理

論面ではその重要性が大いに強調されてきている。ことに文科省学習指導要領第6回改定では「実践的コミュニケーション能力」育

成を英語教育の目標として打ち出し、続く第7回改定では聞く・話す・読む・書くの4技能を統合的に扱う指導の重視を打ち出し、更に「高等学校では英語授業は原則として英語で行うこと」とした。

しかし、実際に授業を行う現場教師の間に、具体的な指導技術が十分身につけているとは言えない状況にある。特に、コミュニケーション重視型の教授法に関する文献は、ほとんどが英米で開発されたものの翻訳にとどまり、日本の学校の教室現場では必ずしも機能しない。このように、現場教師が十分に指導方法がわからずに授業を行うことにより、ここ10年ほどの学校英語教育が、ただ単に遊び的に英語に触れさせるに留まり、語彙・文法能力・発表力の低下を招いているという厳しい指摘が出されている。

このような状況下では、日本の学校環境で、日本人英語教師が日本人生徒を対象にして実際に機能しうる中高英語コミュニケーション授業の指導法の開発と紹介が急務となっている。

2. 研究の目的

本研究は、上記のような必要に対応するために、3カ年間をかけて研究担当者が、附属島田中学校英語科と連携して、文献研究・学会参加や講師招聘を通してコミュニケーション重視の英語指導法を開発し、その成果を英語教員養成や現職英語教員研修で使えるハンドブック（授業場面を録画したDVD付き）として作成し、それを大学の英語教員養成機関や、教育委員会の中学・高校英語指導主事、英語教育学会所属の現職英語教員、英語教員養成課程の学生や院生に無償提供することを目的としている。

特に焦点を当てる指導法領域としては、

- (1)英語によるウォームアップ活動、
- (2)新出教材導入の英語オーラル・イントロダクション、
- (3)英語による新出文法事項の帰納的導入、
- (4)教室内英語コミュニケーション活動、
- (5)ALTとのチームティーチング、
- (6)Show and Tell、
- (7)英語ディベート、
- (8)自由英作文、
- (9)英語プレゼンテーション、
- (10)タスク活動、
- (11)strategic interaction 活動、

の指導法とした。

3. 研究の方法

以下の3つの方法で研究を行った。

(1) 先進的指導法の研究・見学

研究担当者（代表者・分担者・協力者）が関連分野の文献研究に加え、中部地区英語教

育学会その他様々な英語教育学会大会の、本テーマに関係した発表を聞いて資料収集し、また先進的授業を実施する学校を視察して学び、その成果を持ち寄って検討を加えた。

(2) 先進的指導技術の講師招聘と研究協議

外部講師を招いて通算4回の公開セミナーを開催し、講師と参加者を交えて指導技術について研究協議した。これらのセミナーは、静岡県教育委員会・静岡市教育委員会・浜松市教育委員会の後援を得て、また雑誌『英語教育』の行催事欄に予告掲載して広く参加者を募ったため、毎回50名を上回る教員・院生・学生が県内外から参加した。

平成20年2月24日：テーマ“Teaching English through English”、講師は信州大学教育学部准教授・酒井英樹氏、静岡大学教育学部教授・三浦 孝、静岡大学教育学部附属島田中学校教諭・柳瀬昭夫氏、浜松市立北浜中学校教諭・足立智子氏。

平成20年12月7日：テーマ「教室内英語コミュニケーション活動」、講師は静岡大学教育学部教授・三浦 孝、同大学准教授・矢野 准。

平成21年3月14日：テーマ「英語音声指導法」、講師は早稲田大学教育学部教授・東後勝明氏、静岡大学教育学部附属島田中学校教諭・飯塚稔文氏。

平成22年3月7日：テーマ「チーム・ティーチングの活用法」、講師は岐阜大学教育学部准教授・巽 徹氏、愛知県刈谷市立小学校 ALT・ダグラス・スウィートラブ氏、静岡市立中学校教諭・藤沢 英氏。

(3) 研究担当者3名が、開発してきた種々の教室内コミュニケーション活動を学生ボランティア（生徒役を担当）対象に実際に実施し、その手順を確認し、学習者の側の感想も含めて検討し改良を加えた。改良を加えた活動を実際に行っている場面をビデオ撮影して50分に編集し、後述のDVD付き冊子の資料とした。

4. 研究成果

上記の研究は、平成22年3月完成のDVD付き冊子『確かな力を育てる英語授業ハンドブック』（三浦 孝・内田 恵・矢野 淳・飯塚稔文著、132頁、50分DVD付）として出版した。本冊子には先進的指導技術が

(1) 英語によるウォームアップ活動の仕方

(2) 英語によるオーラル・イントロダクションの仕方

(3) 英語による新出文法事項の教え方

- (4)テキスト本文の内容理解活で追う
- (5)新しい文法指導のあり方
- (6)テキスト本文の音読指導のあり方
- (7)教科書から発展させた英語コミュニケーション活動
- (8)英語コミュニケーション活動を成立させるための基本的条件とは何か
- (9)英語コミュニケーション活動の幹とは何か
- (10)コミュニケーションのためのペアワーク・グループワークの運営法
- (11)コミュニケーションの足腰を鍛える常設的活動
- (12)ALT とのティーム・ティーチングの行い方

の各章に分かれて紹介されている。この冊子は現在、近隣大学の英語教員養成担当教員や、静岡県下と愛知県下の中高英語指導主事、静岡県下の中高英語教師からの要請に応じて順次無償配布中であり、受け取った教師からは「非常に役立つ資料だ」と好評を得ている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

- ① 矢野 淳、「新学習指導要領下における EFL 学習者の入試読解力を養成するリーディング活動」、査読有、『静岡大学教育学部研究報告 教科教育篇 第 41 号』、2010 年 3 月、pp.25-30.
- ② 三浦 孝、「日本の英語教育が目指すべき『英語力』とは何か」、査読有、「中部地区英語教育学会『紀要』39」、2010 年 1 月、pp.362-363
- ③ 内田 恵、「TOTAL ENGLISH のミニ文法講座 その 6」 査読無、『教科研究 TOTAL ENGLISH』第 114 号、東京. 学校図書、2009 年 10 月、pp.10-11.
- ④ 内田 恵、「TOTAL ENGLISH のミニ文法講座 その 5」 査読無、『教科研究 TOTAL ENGLISH』第 113 号、東京. 学校図書、2009 年 4 月、pp.10-11
- ⑤ 内田 恵、「教育のための英文法」、査読有、『静岡大学教育学部研究報告教科教育学編』第 40 号、2009 年 3 月、pp.85-96
- ⑥ 矢野 淳、「接辞・語根に着目した EFL 語彙指導法」、査読有、『静岡大学教育学部研究報告 教科教育篇 第 40 号』、2009 年 3 月、pp.113-118.
- ⑦ 三浦 孝、「新学習指導要領は ELT カリキュラムたりうるか」、査読有、「中部地区英語教育学会『紀要』38」、2009 年 1 月、PP.413-420
- ⑧ 三浦 孝、「学習者の成長欲求に応える英語教育」、査読無、大修館『英語教育』2009 年 1 月号、Vol.57. No.11、pp.10-12
- ⑨ 内田 恵、「TOTAL ENGLISH のミニ文法講座 その 4」 査読無、『教科研究 TOTAL ENGLISH』第 112 号、東京. 学校図書、2008 年 10 月、pp.10-11.
- ⑩ 三浦 孝、「Strategic Interaction for Japanese Students」、査読有、*JALT 2007 Conference Proceedings. The Japan Association for Language Teaching.* 2008 年 8 月、pp.425-438
- ⑪ 内田 恵、「TOTAL ENGLISH のミニ文法講座 その 3」 査読無、『教科研究 TOTAL ENGLISH』第 111 号、東京. 学校図書、2008 年 4 月、pp.10-11.
- ⑫ 三浦 孝、「中高大で英語による行動力育成をどう積み上げるか」、査読有、『静岡大学教育学部研究報告教科教育学篇』第 39 号、2008 年 3 月、pp.185-198
- ⑬ 内田 恵、「TOTAL ENGLISH のミニ文法講座 その 2」 査読無、『教科研究 TOTAL ENGLISH』第 110 号、東京. 学校図書、2007 年 10 月、pp.10-11.
- ⑭ 三浦 孝、「中高大連携の柱は英語力中心でよいか」、査読無、大修館『英語教育』、2007

年 5 月号、Vol.56. No.2, pp.22-24

- ⑮内田 恵、「TOTAL ENGLISH のミニ文法講座 その 1」査読無、『教科研究 TOTAL ENGLISH』第 109 号、東京・学校図書、2007 年 4 月、pp.10-11.

[学会発表] (計 5 件)

- ①内田 恵、「小学校外国語活動において留意すべき児童の心理的側面」企画者(司会)、日本教育心理学会 第 51 回総会シンポジウム、2009 年 9 月 22 日、静岡大学
- ②内田 恵、「コミュニケーション活動と英文法」静岡大学教育学部附属島田中学校 第 54 回教育研究発表会英語ワークショップ、2008 年 11 月、静岡大学教育学部附属島田中学校
- ③三浦 孝、「学習者の成長欲求に英語教育はどのように応えるか」、第 34 回全国英語教育学会東京大会問題別討論会第 17 室、2008 年 8 月 9 日、昭和女子大学
- ④三浦 孝、「新学習指導要領でどんな授業ができるか・できないか」、第 38 回中部地区英語教育学会長野大会シンポジウム、2008 年 6 月 28 日、清泉女学院大学
- ⑤三浦 孝、「問題のある学級での英語授業」、第 37 回中部地区英語教育学会三重大会自由研究発表、2007 年 6 月 24 日、三重大学

[図書] (計 5 件)

- ①三浦 孝・内田 恵・矢野 淳・飯塚稔文、『確かな力を育てる英語授業ハンドブック』(著、自費出版、2010 年 3 月 15 日、132 頁、50 分 DVD 付)
- ②矢野 淳、「接辞・語根に着目した EFL 語彙指導に関する一考察」、『英語教育・英語学習研究 現場型リサーチと実践へのアプ

ローチ 金谷憲教授還暦記念論文集』、桐原書店、2008 年 7 月、pp.177-182

- ③内田 恵・前田満、『語用論』英語学入門講座第 11 巻、英潮社、2007 年 4 月、245 ページ
- ④三浦 孝、「中学校英語授業での常設的コミュニケーション活動のあり方」、東京：成美堂『新しい英語教育のために』、2007 年 3 月、pp. 178-190
- ⑤内田 恵、「語用論を活用した英文法指導—語順交替の背景—」、『英文法研究と学習文法のためのインターフェイス』(中村捷・金子義明編)、東北大学文学研究科、2007 年 2 月、pp. 29-54

[その他]
ホームページ等

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~etmiura/jugyoryokukojoseminar1.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者
三浦 孝 (MIURA TAKASHI)
静岡大学・教育学部・教授
研究者番号：30279989

(2) 研究分担者
内田 恵 (UCHIDA MEGUMI)
静岡大学・教育学部・教授
研究者番号：80185032

矢野 淳 (YANO JUN)
静岡大学・教育学部・准教授
研究者番号：50303524

(3) 連携研究者